

PIARC（世界道路協会）TCB 5 冬期サービス委員会参加報告

松澤 勝*

1. はじめに

PIARC（世界道路協会）のTCB 5冬期サービス委員会が、2010年9月20～21日に、アンドラ公国・アンドララヴェラ市で開催された。アンドラ公国は、スペインとフランスの間、ピレネー山脈の山間にある人口8万人の小さな国であり観光が主要産業である。2014年には、この地で、第14回国際冬期道路会議が開催されることになっており、そのため今回の委員会がアンドラで開催されたものである。筆者は、この委員会に参加する機会を得たので、これらの概要を報告する。

2. PIARC（世界道路協会）とは

世界道路協会の現在の名称はWorld Road Associationであり、PIARCは、旧名称のPermanent International Association of Road Congressの略である。しかしPIARCが、現在でも広く使われており、“World Road Association PIARC”と表記されることも多い。

PIARCは1909年設立で、本部はフランスのパリにある。PIARCは、独自の活動計画に基づき、交通安全、各種交通モードの有効利用など、道路及び道路交通政策の策定と新たな道路技術の開発に貢献することを目的としている。加盟国は、2010年9月の時点で日本を含む118カ国であり、各国の第一代表は公共事業担当大臣から指名され、日本からは国土交通省道路局長がその任にあっている。

PIARCでは、ほぼ4年毎に戦略計画(ST:Strategic Theme)を定めている。現在の期間(2008～2011年)には、以下の4つの戦略計画があり、この計画に基づいて、戦略計画毎に4～5つの技術委員会(TC:Technical Committee)が設けられている。

- ・ ST A – Sustainability of the Road Transport System (持続可能な道路交通システム)
- ・ ST B – Improving Provision of Services (サービス提供の向上)
- ・ ST C – Safety of the Road System (道路システムの安全)

- ・ ST D – Quality of Road Infrastructure (道路インフラの品質)

このうちTCB 5冬期サービス委員会が属するST Bには、以下のTCがある。

- B1: Good governance of Road Administration (道路行政の良い統治)
- B2: Road Network Operation (道路ネットワーク運用)
- B3: Improved Mobility in Urban Areas (都市のモビリティ改善)
- B4: Freight Transport and Inter-Modality (物流とインターモーダル)
- B5: Winter Service (冬期サービス)

各TCは、委員と連絡委員、準委員から構成される。日本のメンバーは、委員が筆者、連絡委員が(社)北海道開発技術センターの原文宏氏、準委員が、国土交通省国土政策総合研究所の池原圭一氏である。現在の任期(2008～2011年)では、当研究所の前特別研究監である加治屋安彦氏が委員だったが、2009年8月に逝去されたため、9月から急きょ筆者が後任の委員として参加することとなった。

各TCは、TC毎に戦略計画に基づいて、ワーキンググループ(WG)を設け、国際的な調査やレポートのとりまとめ、発展途上国への技術普及を目的としたセミナーの開催等の活動を行っている。また、年に数回委員会を開催して議論を行っている。

3. TCB 5 冬期サービス委員会

TCB 5冬期サービス委員会は、アンドララヴェラ市のコンgresセンターで行われた(図-1)。日本からは、筆者と、連絡委員の原氏が参加した。

始めに、アンドラ公国道路庁のRamon Reguant氏より、歓迎の挨拶が行われた。

続いて、2010年2月にカナダ・ケベック市で開催された第13回国際冬期道路会議ケベック大会に関する報告が行われた。

その後、PIARC 戦略計画(2008～2011)に関する議

論が行われた。最初はワーキンググループ(WG)での討議である。2008～2011の現任期において、TCB 5委員会には、次のWGがある。

- B. 5. 1 - 冬期道路情報システムの高度化
- B. 5. 2 - 持続可能な冬期道路の提供
- B. 5. 3 - 冬期道路会議を通じた情報共有
- B. 5. 4 - 道路利用者とのコミュニケーション

委員は、それぞれのWGに分かれて、レポートの取り纏めに向けて議論を行った。筆者はB. 5. 1のワーキングに参加したが、B. 5. 1については、イギリスと米国の委員が中心になって11月頃までにドラフトを作成し、他のメンバーに意見照会を行う事が確認された。

続いて、冬期道路セミナーが、モンゴルで2011年2月21～22日に開催される予定であることが報告された。PIARCでは、各TCに対して、任期内に2回、発展途上国で技術セミナーを開くことを課している。今年の春頃からパリ本部とモンゴルとの間で、開催に向けた調整が行われており、砂利道路の冬期道路管理、吹雪対策などがテーマに挙げられる予定である。ところで、前回、チェコで開催された冬期道路セミナーでは、TCB 5委員会の委員が多数出席して発表やディスカッションを行った。しかし、TCB 5委員会のメンバーの多くは欧州の代表であり、委員会の場で、モンゴルのセミナーに参加可能な者を尋ねたが少数であった。筆者は参加可能と回答したが、アジアの一員として、我が国に期待されるところが大きいものと思われる。

なお開催日程については、帰国後のメール審議により4月7～8日に変更になった。

次に、PIARC世界道路会議メキシコ大会について議論が行われた。冬期道路関係は、今年2月にカナダで国際冬期道路会議が開催されたため、1件の申し込みしか無いそうである。ただ、TCB 5委員会としては、前述の各WGのレポートなどの報告などを行う方向で検討することとなった。

その後、次の任期(2012～2015)におけるPIARC戦略計画についての報告が行われ、最後に、次回のTCB 5冬期サービス委員会が2011年3月29～30日に英国エジンバラ市で開催されることが報告され、会議は終了した。



図-1 会議の様子

4. 道路交通情報センター

会議の後、道路交通情報センターへの視察が行われた。ここでは52.8kmの道路を24時間体制で監視しているとのことである。監視カメラは、トンネルに40台、それ以外の道路に50台設置され、2分ごとに更新されており、これらの情報はWEBでも提供しているとのことである。また、フランス気象庁から気象情報を入手して、道路管理に利用していることなどの説明が行われた。

5. おわりに

各国の委員会への参加の仕方として、道路管理者とともに民間コンサルタントが委員として加わっているものもあり、そして担当のWGのレポート作成を行っている国もあり、委員会活動を支える体制の必要性を感じた。

今回、加治屋氏の後任として国際的な委員会に日本の代表として参加することになったが、今後とも皆様のご指導とご支援を得つつ、鋭意、努力して参りたいと考えている。



松澤 勝*

寒地土木研究所
寒地道路研究グループ
雪氷チーム
上席研究員
博士(工学)
気象予報士
技術士(建設)